

アンケート調査に基づく長崎県内のゴミ問題意識調査

長崎大学工学部 正員 後藤 恵之輔
同上 学生員 ○外山 秀人

1. まえがき

現在、私たちの身の回りには、物があふれ、生活を便利にしている。企業の利潤や生活の便利さを追及するあまり、今日の大量消費、使い捨ての文化ができ上がってしまっている。しかし、このままだと有限な地球の環境は、こうした文化によっていつかは破壊され兼ねない。今や消費した後の始末を考えて、消費生活を送るべき時代になってきている¹⁾。この様な背景の中、本研究室はまず住民がどのような意見を持ち、どのような消費生活を送っているのかを調査するために、アンケート調査を実施した。

簡単に「ゴミ」と言っても、2種類のゴミに分けることができる。一つは、一般廃棄物と言われ、私たちが普段生活している中から出てくる廃棄物の事であり、もう一つは、産業廃棄物と言われ、企業や自治体などの事業活動によって出される廃棄物の事である。本研究では、前者の一般廃棄物に絞って、長崎県内の住民のゴミ問題に対する意識を調査したので、その結果を報告する。

2. 目的および内容

本研究の目的、内容は以下の通りである。

- ① ゴミ問題をテーマにしたアンケート調査が、平成2年2月12日～2月24日の間に、福岡県住民15000人を対象に、公明党福岡県本部県民運動局と女性局によって行われた。このアンケート結果と、我々が行ったアンケート結果をもとに、福岡県住民と長崎県住民のゴミ問題に対する考え方などの違いを考察する。
- ② 長崎県内の住民の家庭で、現在行われているゴミ減量の工夫やゴミ処理方法を把握する。
- ③ 住民の行政や企業に対する考えまたは要望を把握し、今後の行政や企業は、どのような事に注意して、ゴミ問題対策を立てると良いかを究明する。
- ④ 他県、他国のゴミ問題対策への考えを把握する。

上記の①～④を県全体から島、市街地、その他の地区等に分け、考察する。

3. アンケート方法

今回のアンケート調査は、(財)長崎県地域婦人団体連絡協議会(会員数約8万人)の会員、または、その会員の家族等に、長崎県内を18地区に分け、各地区50～60部ずつ配布し、合計1000名を対象に行った。

4. アンケートの結果と考察

ここでは、2.で述べた②、③の調査結果の一部についてのみ報告する。

② 長崎県内の住民の家庭で、現在行われている

ゴミ減量の工夫とゴミ処理方法の把握

i) ゴミ減量の工夫について(図-1)

「ゴミ減量のためにどのような工夫をしていますか」という問いに対して、1. 3. 7. 8という答えが多く、3. 7. 8の身近な工夫が多い中、最近まであまり行われなかった1が、多くなっているのが目立つ。また、5が少ないということが、リサイクルがうまくいかない原因の1つではないかと思われる。

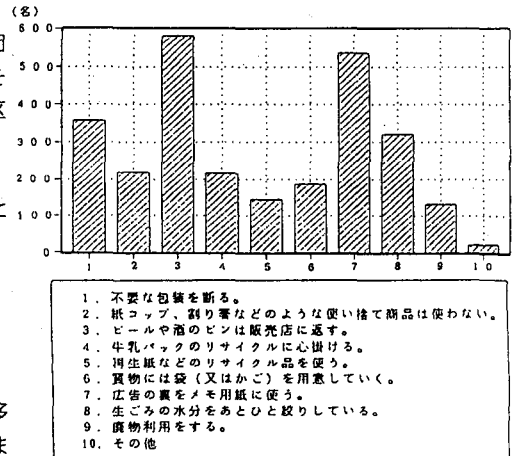


図-1 ゴミ減量の工夫

ii) ゴミ処理方法について (図-2)

家庭から出るゴミには色々なものがあるが、ここでは、現在注目されている物として、魚介類肉どのプラスチックトレイや買物の時にスーパーでもらうビニール袋の処理について、どの様にしているか質問を行った。図-2で分るように、6割以上が1と答えており、続いて3、2の順に答えが多い。プラスチックトレイは現在材質や大きさなど、統一した規格が無く、再利用はほとんど不可能な状態である。ものによっては、燃やす際に有毒ガスを発生するものもある。このような問題を抱えたまま、今だ、大量のプラスチックトレイが使用されている²⁾。これに対して、企業、行政、個人は何等かの対策を早急に考えて、一緒になって対処していく必要がある。

③個人の行政、企業に対する考え、または要望

個人と行政と企業の3つに、ゴミ問題解決のための責任負担について質問を行った結果(図-3-1~3)、個人と行政、個人と企業では共に3の答えが一番多く、4、5の答えがわずかだった。企業と行政でも3の答えが一番多く、4、5の答えが少なかった。これらの結果より、行政へ責任がやや傾いているのが分る。

また、福岡県飯塚市では、ゴミの分別回収に対して、燃えるゴミの中に空き缶、空きビンや資源ゴミ(段ボールなど)が混ざっていると、そのゴミを回収しないという姿勢をとっている。このことについての意見として「この様な行政の強い姿勢が必要である。」というのが85.8%と、ほとんどの人が、行政の徹底した分別回収が必要としていることが分る。

5. まとめ

今回取上げたアンケート調査結果から得られた長崎県内のゴミ問題には、次の様なことが考えられる。

- (1) プラスチックトレイやビニール袋の大量使用
- (2) 行政の分別回収の不徹底
- (3) リサイクル商品の低迷

これらの問題を解決していくには個人、行政、企業の三者が協力しあいながら、一つ一つの問題を解決していく必要がある。最後に、アンケート調査にご協力して頂いた長崎県地域婦人団体協議会会員各位に深謝の意を表する次第である。

[参考文献]

- 1) 公明党福岡県本部県民運動局、女性局:

福岡県のゴミ問題アンケート調査分析資料, 1992.2.

- 2) 環境庁リサイクル研究会: リサイクル新時代, pp.100~153, 1991.12.

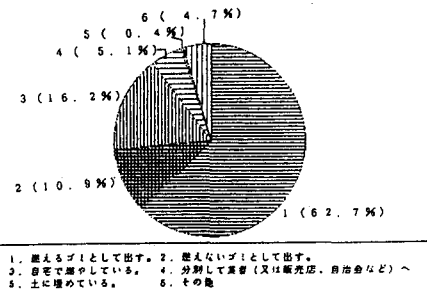


図-2 ゴミ処理方法

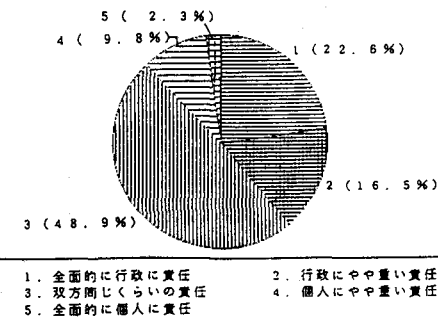


図-3-1 行政と個人の関係

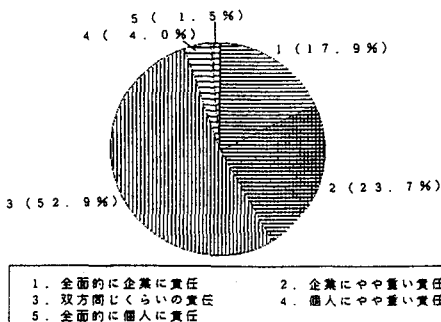


図-3-2 企業と個人の関係

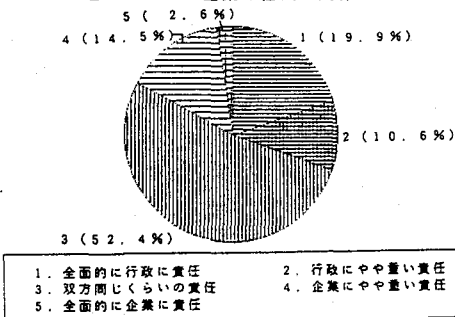


図-3-3 行政と企業の関係